

現況写真 ② 70号棟（旧高島町立端島小中学校）前



隣接する65号棟とともに端島の景観形成に貢献している建物の一つ。

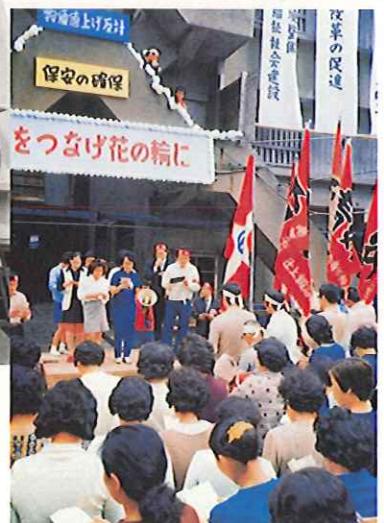
1893年（明治26年）に開校した「三菱社立端島尋常小学校」が前身で、現在の建物は1958年（昭和33年）に建設された。

1階から4階までが小学校、中学校は5階及び7階の一部を使用。

6階は図書室と講堂、7階の一部は化学実験室などの特殊教室であった。

- 8 -

現況写真 ③ 67号棟前



正面にX型の階段を配し、意匠を凝らした外観が特徴的な建物。

1950年（昭和25年）に建設され、独身者の居住施設として利用されていた。

建物前面の通りには、時化や台風などの際、打ち上げられた高波が建物を越えて降り注いだため、この辺り一帯は潮崩町と呼ばれていた。

- 9 -

現況写真 ④ 地獄段前



- 10 -

現況写真 ⑤ 16号棟と17号棟の境地点



- 11 -

現況写真 ⑥ 1号棟（旧端島神社）付近



労使一体となって採炭の安全を祈願した端島神社は、生産施設として位置づけられている。

前面の拝殿は崩壊しており、本殿の建物のみ現存している。

例年4月には例大祭が行われ神輿が島内を巡行していた。

また、高台の見晴らしが良い境内は島民の憩いの場でもあった。

- 12 -

現況写真 ⑦ めがね付近護岸



明治30年代に築造された天川（あまかわ）護岸。

天川とは赤土と石灰を混ぜた石積みの接合剤であり、写真の赤い部分である。

端島内の劣化した護岸は、資産保全のために補修の緊急性が高い。

- 13 -

現況写真 ⑧ 39号棟前護岸の上部亀裂



護岸が外洋側に前傾しており、上部の亀裂が進行している。

- 14 -

現況写真 ⑨ 31号棟前護岸の洗掘



護岸の基礎部分が波による吸出しで流失し、大きな空隙となっている箇所 (L=33m、W=3m、D=1.5~5m)。
早急に埋戻しを検討する必要がある。

- 15 -